

令和4年度学校評価アンケート結果について

都立立川高等学校定時制課程
学校運営連絡協議会評価委員会

〔はじめに〕

立川高等学校定時制課程の学校評価は、経年変化を確認するため、平成10年度より質問項目を変えずに実施している。

平成26年度より、生徒の体罰と暴力に関する質問項目が全都立高校での実施が義務付けられた為、質問項目は15項目となっている。

平成30年度より、保護者と教職員の質問事項に16「教職員のライフ・ワーク・バランス」の取り組みに関する内容についての質問が義務づけられている。

令和4年度より、統合型学習支援サービス（Microsoft Office 365）活用した学校評価アンケート方法に変更とした。集計作業も『office365』を活用して業務の効率化を図った。

第一に、教員や生徒にはteamsにformsで作成したQRコードよりアンケートを実施した。

第二に、保護者には、アンケート案内にQRコードの画像を張り付けたものを配布し、回答を得た。

今年度の回答率は、	一昨年	昨年	今年	
生徒	90.7%	⇒ 92.8%	⇒ 76.3%	
保護者	41.8%	⇒ 38.8%	⇒ 30.0%	
教職員	100%	⇒ 100%	⇒ 100%	であった。

昨年度比で生徒の回答率は減少した。保護者の回答率は微減しており、まだ半分にも届いていないことから改善する必要がある。一方、teamsを活用したことで「立定生活の魅力」や「自由意見」は大きく増えており、意見しやすい環境が構築できた。回答できていない生徒には、引き続きQRコード画像から対応させていく必要がある。保護者をはじめ全体の回答率を上げていくためには、一層の工夫と配慮をしていくことが今後の取り組み目標となる。来年度は、保護者との連携をより深め、アンケート集約・周知方法を工夫・改善し数値の上昇に期待したい。

1 生徒アンケート

(1) 過去との比較

①肯定の割合の高い項目は、	一昨年	昨年	今年
(7) 生徒の悩みや困りごとの相談対応	81%	⇒ 80%	⇒ 82%
(4) 授業は分かりやすい	81%	⇒ 75%	⇒ 81%
(8) 進路についての十分な情報提供	81%	⇒ 77%	⇒ 81%
(10) 学校行事は楽しく充実している。	77%	⇒ 76%	⇒ 78%
②他に比べて肯定の割合が減った項目は、			
(11) 生徒会活動は活発である。	71%	⇒ 65%	⇒ 60%
(12) 部活動活動は充実している。	77%	⇒ 75%	⇒ 66%
(4) 他の学校にない特色がある。	77%	⇒ 78%	⇒ 70%
(1) 自分の将来にとって有益である。	78%	⇒ 79%	⇒ 65%

15項目中10項目について肯定の割合が減少した。5項目で肯定の割合が増加した。内5%以上、肯定の割合が増加し項目は、(4)「授業は分かりやすい」の1項目となった。

2 保護者アンケート

(1) 過去との比較

	一昨年	昨年	今年
①肯定の割合の高い項目は、			
(15) 体罰や暴力を無くす取組が積極的	85%	90%	96%
(13) 生徒の健康や安全に関わる指導	81%	86%	88%
(4) 分かりやすい授業に努めている	86%	86%	86%
(14) 教室・体育館等が整備されている	81%	86%	88%
②他に比べて肯定の割合が減った項目は、			
(11) 生徒会活動は活発である。	64%	73%	56%
(12) 部活動活動は充実している。	80%	75%	58%
(8) 進路指導面での家庭との連絡	72%	80%	65%
(3) 学習活動、学校行事等に特色がある	77%	84%	67%

16項目中12項目について肯定の割合が減少した。1項目で横ばい、3項目で肯定の割合が増加した。内5%以上、肯定の割合が増加し項目は(15)体罰や暴力を無くす取組が積極的の1項目となった。

3 教職員アンケート

(1) 過去との比較

	一昨年	昨年	今年
①肯定の割合の高い項目は、			
(6) 生徒指導で家庭と連携を保っている	94%	93%	100%
(9) 進路相談機能の充実	93%	93%	100%
(8) 進路指導の情報提供の積極性	94%	86%	93%
(15) 体罰や暴力を無くす取組が積極的	94%	93%	100%
②他に比べて肯定の割合が減った項目			
(11) 生徒会活動は活発である。	75%	64%	57%
(12) 部活動活動は充実している。	81%	86%	50%
(2) 生徒にとって学校生活が充実している	88%	86%	64%
(16) ライフ・ワーク・バランスの実現	75%	71%	50%

16項目中5項目について肯定の割合が減少した。6項目で横ばい、4項目で肯定の割合が増加した。内7%以上、肯定の割合が増加し項目は、(6)生徒指導で家庭と連携を保っている(9)進路相談機能の充実(13)生徒の健康や安全に関わる指導(15)体罰や暴力を無くす取組が積極的の4項目となった。

(2) 今後の課題と改善策

- ①生徒、保護者、教員の三者すべてにおいて、(11)「生徒会活動に取り組んでいる」(12)「部活動は充実している」の二つの項目で肯定の割合が大幅に減少してしまった。特に教員の回答では(12)「部活動は充実している」が50%まで下がっており、部活動を活性化させなければならない状況となっている。また、生徒会活動を活発化させ、生徒自らが行動できる主体性を身に着けさせていく指導を充実していくことが必要である。生徒が学校生活を送りながら充実感や自己肯定感を持たせる指導の機会を増やしていくことも大切である。
- ②(第2回)学校運営連絡協議会で外部委員から意見・要望があったように、以下の3つの課題について改善しなければならない。1つ目は出欠席について、なんとか進級・卒業にもっていくこと。2つ目は学力をつけさせること。最低でも社会で通用する学力をつけさせること。3つ目は社会性を伸ばすこと。他者とかかわることで伸びるが、輪に参加しづらい生徒もいる。どのように参加させていくか、計画的な指導を実践していくことである。
- ③生徒、保護者、教員の三者にとって、肯定的な回答の割合が同じようになるよう、日頃の業務等を振り返りながら、工夫・改善していくことが必要である。